

大学史展示室 特集展 6

駒大の草創期

会 期 平成18年10月2日(月)～12月22日(金)

場 所 駒澤大学禅文化歴史博物館2階 大学史展示室

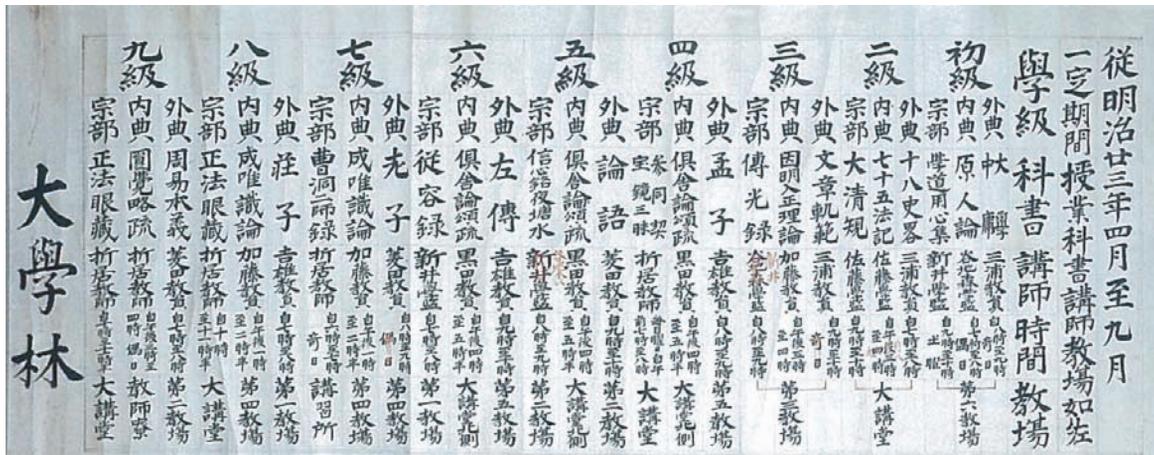
主 幹 駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室

平成18(2006)年10月15日、駒澤大学は124回目の開校記念日を迎えます。駒澤大学は、明治15(1882)年10月15日に麻布区北日ヶ窪町(現港区六本木)で産声をあげました。

発足当初、「曹洞宗大学林専門学本校」と名乗り、日本に伝わった禅宗のひとつ、曹洞宗の僧侶が学ぶ学校でした。

今回、大学史展示室では10月15日の開校記念日にちなみ、124年前の学校の建物、学生の生活、授業のようすについて紹介したいと思います。

この展示を通じて、駒澤大学が発足した当時を学んでいただければ幸いです。



明治23(1890)年 曹洞宗大学林専門学本校の時間割

I 草創期の学び舎

曹洞宗大学林専門学本校の校舎は、山門、大講堂、生徒寮、教員室、書籍蔵などの木造建築がありました。これらの建物はすべて、瓦葺きの屋根でした。

山門は、現在、滋賀県彦根市の清涼寺の山門として移築されています。近年、この山門の「懸魚」が、当館に寄贈となりました。

【展示資料】

- 資料 曹洞宗大学林専門学本校山門の懸魚
もと滋賀県清涼寺の山門の懸魚(けぎょ)でしたが、取り外され平成16(2004)年に当館に寄贈となりました。この懸魚は、もっとも古い形式とされるハート形の切り込みがある猪目(いのめ)懸魚です。
- 写真 滋賀県清涼寺の山門
- 写真 明治35(1902)年 曹洞宗大学林専門学本校時代の山門

II 授業と教材

当初、曹洞宗大学林専門学本校の学生定員は、200人でした。すべての学生は、学校に寄宿し、永平寺や總持寺での修行生活に準じた大変制約の多い生活を送っていました。

また、授業の科目も、『正法眼蔵』などの禅籍を中心とし、授業を受けるときの服装は、黒い衣を着用することが義務付けられていました。

【展示資料】

- 資料 明治23(1890)年 曹洞宗大学林専門学本校の時間割
科目は、内典(仏教の経典)、外典(仏教以外の論語など)、宗部(正法眼蔵などの禅籍)の3つでした。曹洞宗大学林専門学本校の在籍年数は3年で、この間に初級から9級まで進級することになっていました。
- 写真 明治16(1883)年 托鉢免許之証(千葉県 椎名宏雄氏蔵)
- 写真 明治17(1884)年 専門学本校9級卒業証書(千葉県 椎名宏雄氏蔵)



明治18(1885)年 曹洞宗大学林専門学本校生
(岩手県 熊谷忠興氏蔵)